



人間作業モデル
実践リーズニングまとめ

湘南OT交流会
藤本一博

本日のお題

① 人間作業モデルとは？

※おさらい

② 臨床家のもんだい

③ まとめる必要性

④ 事例紹介



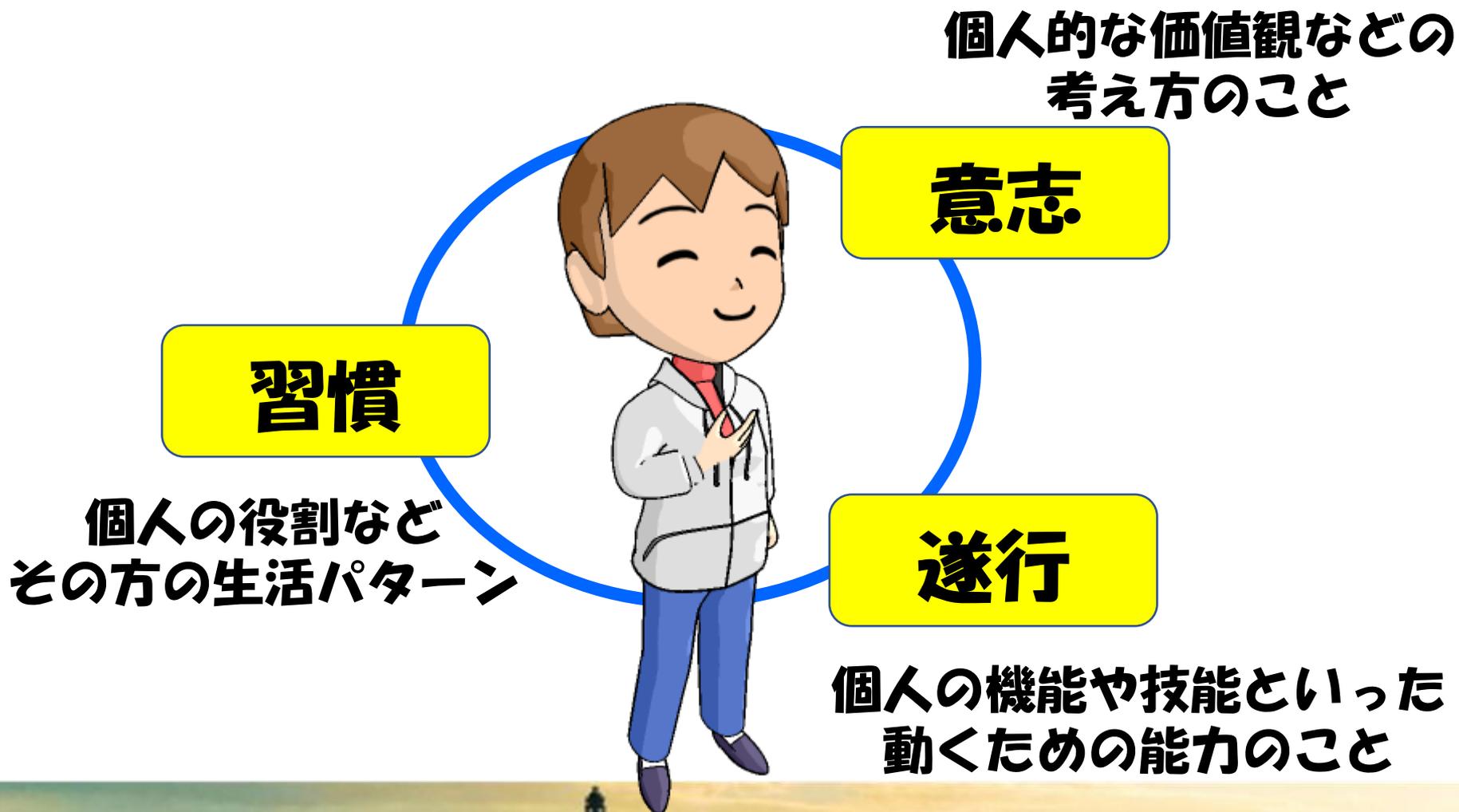
人間作業モデルとは

人間作業モデル

(Model of Human Occupation : MOHO) とは、きわめて簡単にいうと、意志，習慣化，遂行能力，環境の**4つの要素**を含み，人がそれらの間の**ダイナミクス**で相互的な交流の結果として，どのように作業に就くのかを説明するものである。

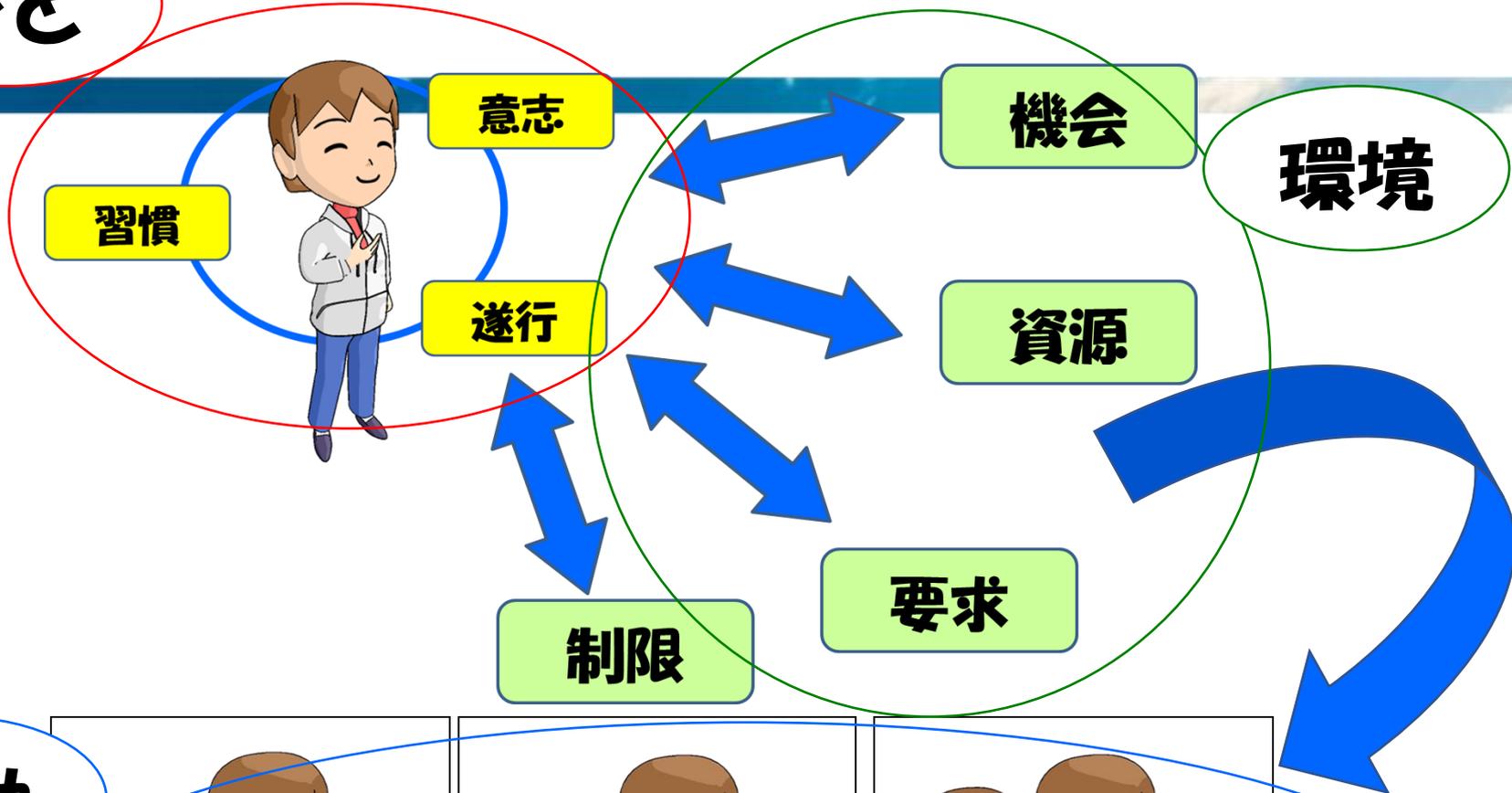


人を構成する要素



作業行動のまとめ

ひと

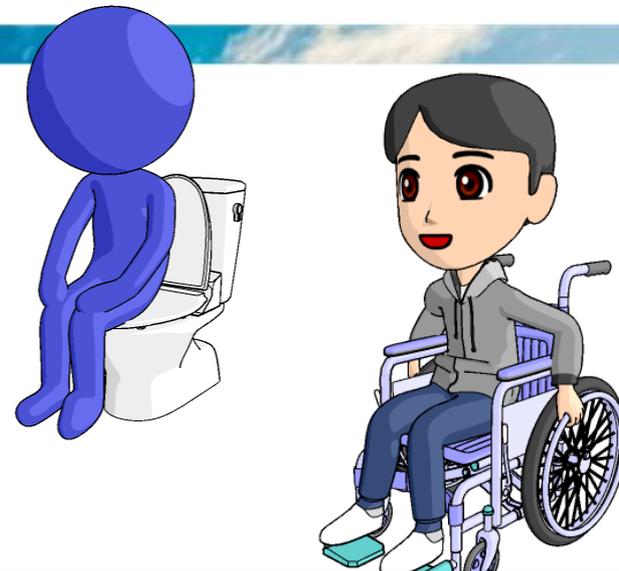


行動



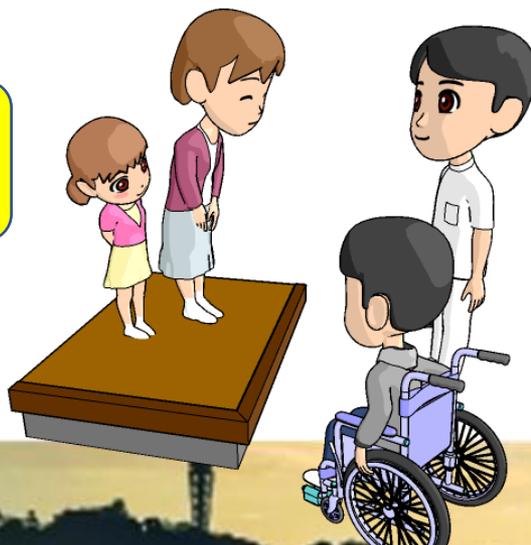
MOHOは従来の

- 四肢筋力低下 → 筋力検査
- 巧緻性低下 → 巧緻性検査
- 運動失調 → 失調検査
- 注意障害 → 注意検査



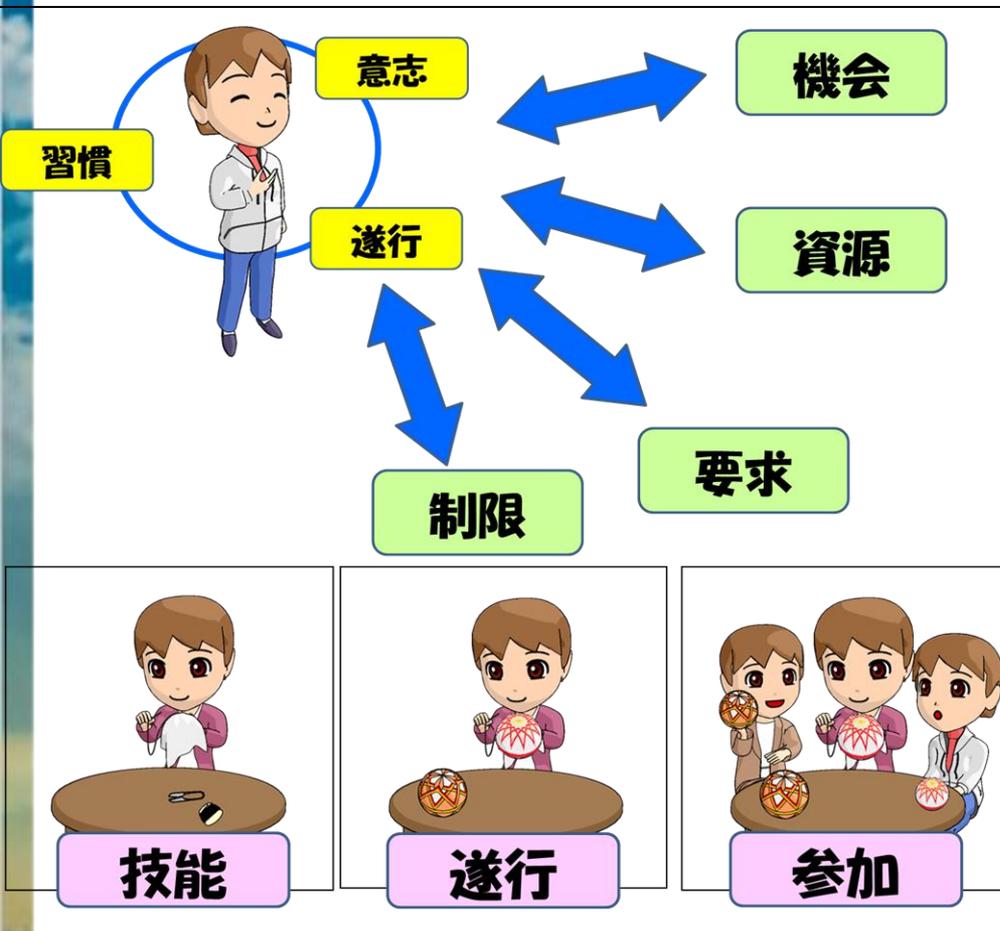
移動能力やトイレなどのADL

在宅復帰に
繋げる方略



といった
ボトムアップの
思考から

人・環境・作業からの自己認識といった全体を見る視点へとOTを変革するモデル



作業同一性

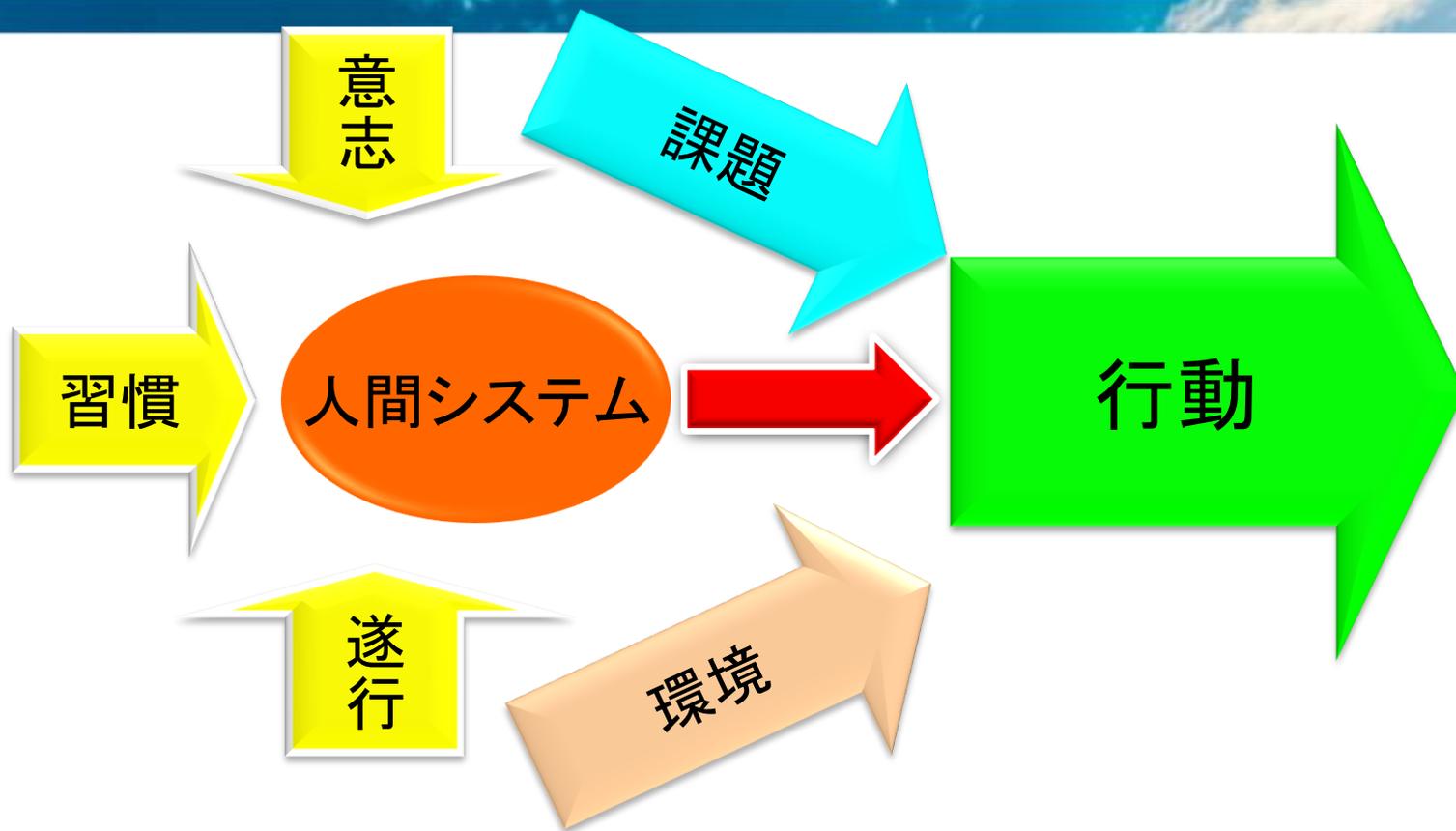
自分は何者なのか
自分の存在意義は何か

作業有能性

何を成し遂げようか
何を守ろうか

まずはここから

概念図



私の中のMOHOイメージ図（非公認）

再発作

循環構造

入院

(環境の変化)

誰に頼れば良いんだ？

(不安の出現)

妻に会えない

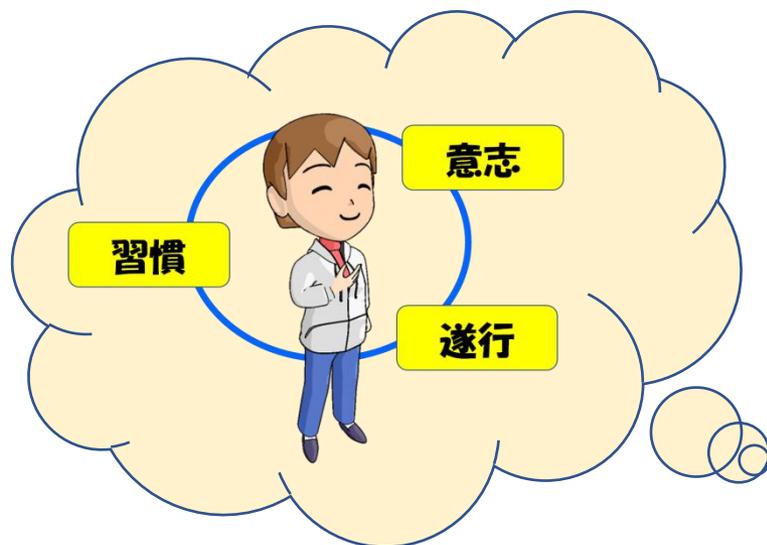
スタッフからの
注意

妻はどこだ～

物の収集

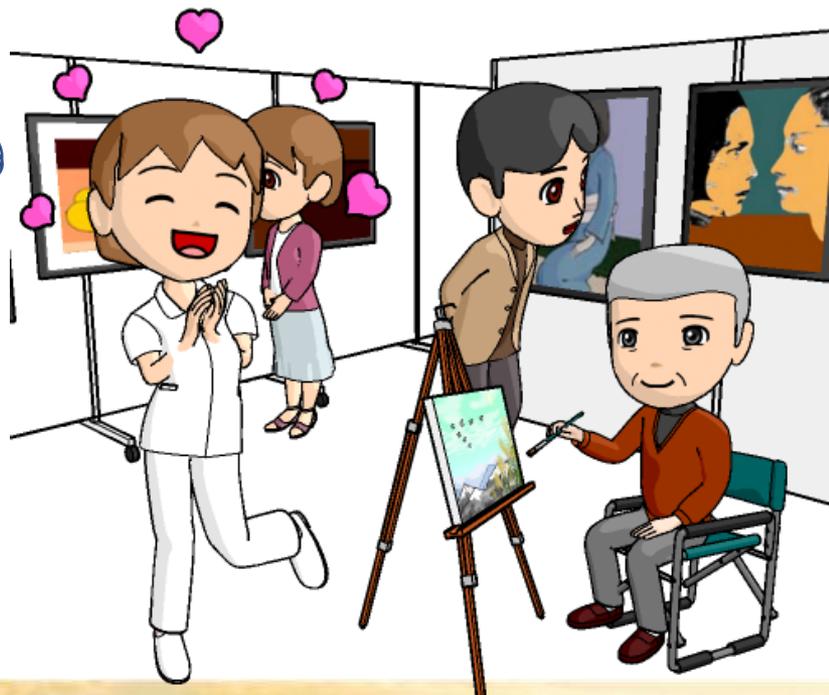
<悪循環>

そうして



こんな感じで
終わっていませんか？
これで満足していませんか？

MOHOで考察したら
大事な作業を再獲得！
ほんとうに良かった
勉強して良かった！活かされた！



専門家の深み・成長



**見落としはないでしょうか？
もっといい効果出せたかも？**

**背景根拠は明確？
他部門や家族に根拠示せる？**

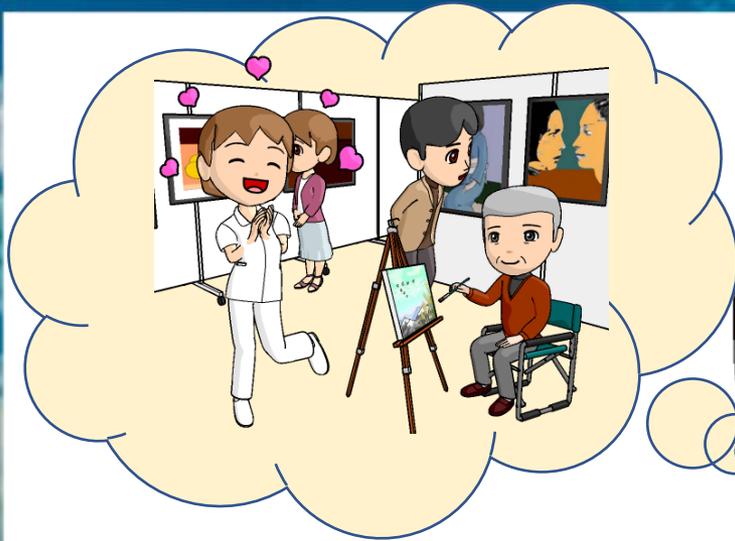
**細部まで説明ができる？
説明できないと経験の蓄積は
弱い！次に活かさない！**

まとめる必要性

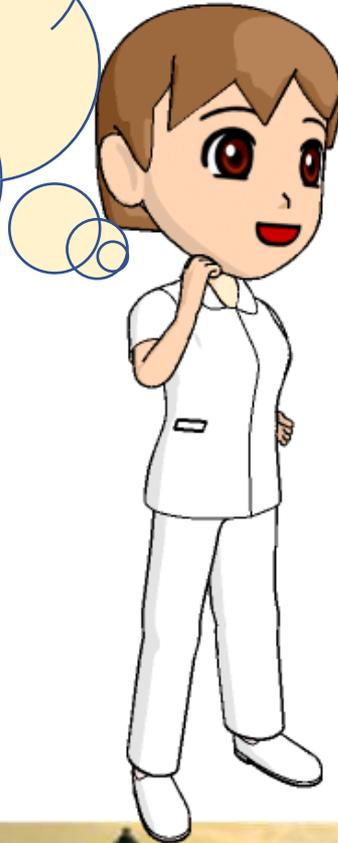
**臨床場面では、その時々の瞬時の意思決定によって
介入や評価が進められるため、事例報告を通して
その意思決定が
「適切だったか？」
「さらにいい方法があるかどうか」
「CLの反応はこう解釈もできるのか」など
リースニングや実践課程を振り返ることが必要**

齋藤佑樹編集：作業で語る事例報告第二版、医学書院、2022

OT臨床家最大のもんだい



とにかく
忙しい



**センスを主とした即興的な実践
背景根拠に乏しい！
文献的な裏付けをしていない**

**事例を振り返ることをせず
専門性と向き合わない**

**見落としがあったのでは？
気づきを得られる
レジュメなどのまとめをしない**

レジユメツール

Clinical Reasoning Ot Tool - Resume

CROT-R



概要：骨格変位の痛みを取り戻した事例

【基本情報】

A氏、80代女性である。後居生活中、買い物のため自転車で移動中に転倒し、骨盤骨折となる。保存的治療にて3週間経過後に当院回復期へ転院され、OTにはADLと在宅生活の再構築を目的に介入指示が出ている。

【人生の物語】

A氏は家族との人間関係に疲れ20代で単身上京している。その後は無資格で飲食店勤務や事務仕事などを経て5年ほど経っていた。収入も少なく、60代で退職して生活が安定するまで働いてきた。趣味の作業があり、非常に充実しているとの認識を示している。

【本人のニーズ】

歩けるようになって早くひとり生活に戻りたい。

【家族のニーズ】

家族なし。

【7への基本情報 (文献)】

骨盤骨折のリハは上肢訓練から開始し、荷重許可に応じて立位歩行へ移行する¹⁾

【疾患の予後予測 (文献)】

2〜3か月で骨癒合し、完治する事が可能である²⁾

【物事に關する文脈】

閉じこもりは身体的、心理学的、社会的なリスクを生じやすく、生きがいの創出が重要である³⁾

【先輩からの指導、アドバイス】

完成品を披露したくなる作業導入が自発的交流を促した経験があるため、考慮した方がよい。

【治療評価 カンファレンス内容】

医師：2か月程度で骨折は完治する見込み、歩行器から全歩行へ移行可能と許可。

MSW：歩行器使用を許可し、歩行練習を促す。現在は歩行器なしで歩ける。

MSW：歩行器なしで歩ける。歩行練習を促す。現在は歩行器なしで歩ける。

PT：歩行器なしで歩ける。歩行練習を促す。現在は歩行器なしで歩ける。

今後の見込みとして、1か月後に今後のIADL値は再評価とする。

物語的
リーズニング

科学的
リーズニング

【各種測定 検査値】

肢関節ROM：右屈曲90度P 左屈曲20度P

痛みの評価：骨折部以外の圧痛なし。静止時痛なし。動作時に骨盤から大腿にかけて痛みが放射する。

歩行：痛みが耐えながら30M(2分半を要す)の歩行器歩行が可能。歩行後は血圧が収縮期150 5分の休憩で130と変動する。

FIM：運動53点、認知35点、合計88点。転介前から見守りレベルであるも、入居は中間期の全介助で行っている状態である。

作業興味：粘土、折り紙など、コツコツ行う作業に興味を示し、会話は離れた人への好奇心を置く。

【提供する作業について】

- ① 棒体操 (文献1より)
- ② セーフラスト課題 (文献1より)
- ③ 座位エルゴメーター (文献1より)
- ④ 平行棒内立位課題 (文献1より)
- ⑤ 入部動作訓練 (カンファレンスより)
- ⑥ 折り紙手芸 (文献3、先輩アドバイスより)

【提供作業考慮】

ニーレスでも立位歩行を促すため、立位歩行と先輩からの指導を回避する興味関心を満たす。

【プログラム提供スキルについて】

①②③のプログラムは実施方法を理解しており、提供経験がある。しかし④⑤に関しては、痛みを伴う実施にリスクがあり、不安が残る。⑤に関しては、専門書籍があるが、未経験であるため事前に学習の必要性がある。

【提供環境について】

回復期リハとしてOTには毎日1時間の介入時間が与えられた。OT室には棒体操用の物品や字願ボードがあり、PT室のエルゴメーターや平行棒も自由に使用できる。折り紙も16色あり、自由に使用可能である。そして先輩による見守り制度があるため、事前に先輩に依頼することで、④⑤のプログラムを見守ってもらえる環境にあるため、予定通り作業を提供することが出来る。

実際の・倫理的
リーズニング

こういった研鑽は



**今のIT業界での勤務形態では
行わなくても
何とかこなってしまうので
やらない人が多いです！**



**でも、やり続けたらどうなる？
全事例に出来る範囲で
自分だけでも振り返りまとめる！
これを繰り返し続けたら？**

実践から報告への手順は パズルです！

事例情報（カルテ等）

80代女性A氏は早朝に自転車で買い物へ行く途中で転倒し、骨折をした。ROM拡大や筋力トレーニングとADLの回復を目的としたリハビリテーション病棟へ転院され、PTとOTの処方がされた。

エピソード

1か月の介入により歩行車で院内のADL遂行が可能となったため、自宅退院へ向けた生活の再構築を行うために、A氏の生活環境を再検討した。A氏は家族との人間関係に疲れ、20代で単身上京しているが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。仕事でも人間関係の問題が発生し、退職をするという繰り返しであり、人間関係の改善を試みたことは一度もないという人生であった。60代で生活保護となり、それからは人との交流を絶って生活をしてきた。人の目につかない早朝に買い物に行くことが主な外出であり、他の時間はアパートでひっそりと過ごしている。家では洗濯や調理などの家事と音楽鑑賞の作業があり、ラジオで流れる音楽をカセットテープに録音し、自分好みの選曲リストを作っている。カセットテープは新しいものではなく、同じものを何度も上書きしながら使う日々であった。このように人との交流を避けた時間を10年以上も続けるなど同じ作業の繰り返しで、「諦めの人生である」と述べていた。

平行棒での歩行が可能となり、歩行車で院内ADLが遂行可能となった現在の状態をCOPMにて評価した。その結果A氏は「自由に歩けるようになる」重要度10満足度3遂行度3、「買い物へ行ける」重要度10満足度1遂行度3、「荷物を持つことができる」重要度10満足度1遂行度3、「服

【基本情報】

A氏、80代女性である。独居生活中、買い物のため自転車で移動中に転倒し、骨盤骨折となる。保存的治療にて3週間経過後に当院回復期へ転院され、OTにはADLと在宅生活の再構築を目的に介入指示が出ていた。

【人生の物語】

A氏は家族との人間関係に疲れ20代で単身上京している。その後は無資格で就業可能な飲食店、事務仕事など多岐に亘る仕事をしてきたが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。「人間関係の悪化が縁の切れ目」と語っている。60代で生保となり、それからは人との交流を絶って生活をしてきた。寂しくもなく家事と音楽鑑賞の作業があり、非常に充実しているとの認識を示している。

【本人のニーズ】

歩けるようになって早くひとり生活に戻りたい。

【家族のニーズ】

家族なし。

【リハの基本戦略（文献）】

骨盤骨折のリハは上肢訓練から開始し、荷重許容に応じて立位歩行へ移行する¹⁾。

【疾患の予後予測（文献）】

2~3か月で骨癒合し、完治する事が可能である²⁾。

【MOHOに関する文献】

閉じこもりは生体学的、心理学的、社会的なリスクを生じやすく、生きがいの創出が重要である³⁾。

【他部門評価】

医師：2か月程度で骨折は完治する見込み。歩行器から全荷重を許可する。血圧は160未満まで許可。

NS：初対面は冷たいが慣れると笑顔で交流できる。現在はADL車いす見守りレベルで過ごしている。

MSW：退院後は、全ての介護サービスを拒否中。

PT：骨折部の痛みある。歩行耐久性が低い。

【各種測定 検査値】

作業興味：粘土、折り紙など、コツコツ行う作業に興味を示し、会話は慣れた人へのみ心を開く。

事例で体験してみましよう

うえええ〜い



事例情報（カルテ等）

80代女性A氏は早朝に自転車で買い物へ行く途中で転倒し、骨盤骨折をした。ROM拡大や筋力トレーニングとADLの回復を目的に回復期リハビリテーション病棟へ転院され、PTとOTの処方がされた。

関節ROM：右屈曲90度P 左屈曲20度P

痛みの評価：骨折部以外の圧痛なし。静止時痛なし。動作時に骨盤から大腿にかけて痛みが放散する。

歩行：痛みに耐えながら30M（2分半を要す）の歩行器歩行が可能。歩行後は血圧が収縮期150 5分の休憩で130と変動する。

FIM：運動53点，認知35点，合計88点。軽介助から見守りレベルであるも，入浴は中間浴の全介助で行っている状態である。

エピソード

1か月の介入により歩行車で院内のADL遂行が可能となったため、自宅退院へ向けた生活の再構築を行うために、A氏の生活を検討した。A氏は家族との人間関係に疲れ、20代で単身上京しているが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。仕事でも人間関係の問題が発生し、退職をするという繰り返しであり、人間関係の改善を試みたことは一度もないという人生であった。60代で生活保護となり、それからは人との交流を絶って生活をしてきた。人の目につかない早朝に買い物に行くことが主な外出であり、他の時間はアパートでひっそりと過ごしている。家では洗濯や調理などの家事と音楽鑑賞の作業があり、ラジオで流れる音楽をカセットテープに録音し、自分好みの選曲リストを作っている。カセットテープは新しいものではなく、同じものを何度も上書きしながら使う日々であった。このように人との交流を避けた時間を10年以上も続けるなど同じ作業の繰り返しで、「諦めの人生である」と述べていた。

面接

平行棒での歩行が可能となり，歩行車での院内ADLが遂行可能となった現在の状態をCOPMにて評価した．その結果A氏は「自由に歩けるようになる」重要度10満足度3遂行度3，「買い物へ行ける」重要度10満足度1遂行度1，「荷物を持つだけの力を得る」重要度8満足度5遂行度5，「暇つぶしの手作業」重要度7満足度1遂行度1の4つを挙げた希望した．

自由会話から他人に対する好き嫌いが強い性格で，一度嫌いな部分を見つけると，二度と話したくなくなることが多い．その嫌いな部分から目を背けることが出来ず，我慢の連続になるので，人と長く付き合うことはなかった．最近の10年は人との交流を避けて生活してきた．そのため，自分で買い物に行くなど，自分のことは何でも自分で出来なければならない．目標は治らなくても，自分のことは自分で全部できるようになることと話す．人を避けるため，スーパーではなく，人の少ない早朝や深夜でも営業をしているコンビニエンスストアでの買い物を多用している．入院生活で暇を持て余していることも語り，暇つぶしの作業を要望している

ACIS

評価領域	評価項目と評価尺度					
	女性OT	女性PT	女性Ns	男性OT	男性PT	男性Ns
接触する	2	2	2	2	2	2
みつめる	4	4	4	4	4	4
ゼスチャーをする	4	4	4	4	4	4
位置を変える	4	4	4	4	4	4
正しく向く	4	4	4	4	4	4
姿勢をとる	4	4	4	4	4	4
はっきりと発音をする	4	4	4	4	4	4
主張する	4	2	4	4	4	4
尋ねる	4	4	4	4	2	2
かみ合う	2	2	2	4	2	2
表現する	4	4	4	2	2	2
声の調子を変える	4	4	4	4	4	4
披露する	4	4	4	4	4	4
話す	4	4	4	4	4	4
持続する	4	4	4	4	2	2
協業する	4	4	4	4	4	4
従う	4	4	4	4	4	4
焦点をあてる	4	4	4	4	4	4
関係をとる	4	4	4	4	4	4
尊重する	4	4	4	4	4	4
合計点	76	74	76	76	70	70

VQ

評価領域	評価項目と評価尺度					
	調理課題	洗濯課題	折り紙	塗り絵	パズル	音楽鑑賞
好奇心を示す	4	2	4	2	2	4
行為／課題を始める	2	4	4	4	4	4
新しいことをやろうとする	4	2	4	2	2	2
プライドを示す	4	2	4	2	2	2
挑戦を求める	4	2	4	2	2	2
もっと責任を求める	4	2	4	2	2	2
間違いを訂正しようとする	4	4	4	4	4	2
問題を解決しようとする	4	4	4	4	4	2
他人を援助しようとする	2	2	4	2	2	4
好みを示す	4	4	4	2	2	4
他人にかかわる	4	4	4	4	2	4
完成や成就に向けて 活動を追及する	4	4	4	4	4	4
活動にかかわり続ける	4	4	4	4	4	4
活発でエネルギッシュである	4	2	2	2	2	2
目標を示す	4	2	4	2	2	2
ある活動が特別であるとか 重要であることを示す	4	2	4	2	2	2
合計点	60	46	62	44	42	46

こんな感じ！

**皆さんも評価をしますよね
どうですか？**

皆さんも評価はこんな感じですか？

それともこんなに評価していない？

それとも もっとしている？

あとはフォーマットに沿って埋めていくパズルです！

事例情報（カルテ等）

80代女性A氏は早朝に自転車で買い物へ行く途中で転倒し、骨盤骨折をした。ROM拡大や筋力トレーニングとADLの回復を目的とした1か月のリハビリテーション病棟へ転院され、PTとOTの処方された。

エピソード

1か月の介入により歩行車で院内のADL遂行が可能となったため、自宅退院へ向けた生活の再構築を行うために、A氏の生活の再構築を話し合った。A氏は家族との人間関係に疲れ、20代で単身上京しているが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。仕事でも人間関係の問題が発生し、退職をするという繰り返しであり、人間関係の改善を試みたことは一度もないという人生であった。60代で生活保護となり、それからは人との交流を絶って生活をしてきた。人の目につかない早朝に買い物に行くことが主な外出であり、他の時間はアパートでひっそりと過ごしている。家では洗濯や調理などの家事と音楽鑑賞の作業があり、ラジオで流れる音楽をカセットテープに録音し、自分好みの選曲リストを作っている。カセットテープは新しいものではなく、同じものを何度も上書きしながら使う日々であった。このように人との交流を避けた時間を10年以上も続けるなど同じ作業の繰り返しで、「諦めの人生である」と述べていた。

平行棒での歩行が可能となり、歩行車で院内ADLが遂行可能となった現在の状態をCOPMにて評価した。その結果A氏は「自由に歩けるようになる」重要度10満足度3遂行度3、「買い物へ行ける」重要度10満足度1遂行度3、「荷物を持つことができる」重要度10満足度1遂行度3、「服

【基本情報】

A氏、80代女性である。独居生活中、買い物のため自転車で移動中に転倒し、骨盤骨折となる。保存的治療にて3週間経過後に当院回復期へ転院され、OTにはADLと在宅生活の再構築を目的に介入指示が出ていた。

【人生の物語】

A氏は家族との人間関係に疲れ20代で単身上京している。その後は無資格で就業可能な飲食店、事務仕事など多岐に亘る仕事をしてきたが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。「人間関係の悪化が縁の切れ目」と語っている。60代で生保となり、それからは人との交流を絶って生活をしてきた。寂しくもなく家事と音楽鑑賞の作業があり、非常に充実しているとの認識を示している。

【本人のニーズ】

歩けるようになって早くひとり生活に戻りたい。

【家族のニーズ】

家族なし。

【リハの基本戦略（文献）】

骨盤骨折のリハは上肢訓練から開始し、荷重許に応じて立位歩行へ移行する¹⁾。

【疾患の予後予測（文献）】

2~3か月で骨癒合し、完治する事が可能である²⁾。

【MOHOに関する文献】

閉じこもりは生体学的、心理学的、社会的なリスクを生じやすく、生きがいの創出が重要である³⁾。

【他部門評価】

医師：2か月程度で骨折は完治する見込み。歩行器から全荷重を許可する。血圧は160未満まで許可。

NS：初対面は冷たいが慣れると笑顔で交流できる。現在はADL車いす見守りレベルで過ごしている。

MSW：退院後は、全ての介護サービスを拒否中。

PT：骨折部の痛みある。歩行耐久性が低い。

【各種測定 検査値】

作業興味：粘土、折り紙など、コツコツ行う作業に興味を示し、会話は慣れた人へのみ心を開く。

【リハの基本戦略（文献）】

【基本情報】

80代女性A氏は早朝に自転車で買い物へ行く途中で転倒し、骨盤骨折をした。ROM拡大や筋力トレーニングとADLの回復を目的に回復期リハビリテーション病棟へ転院され、PTとOTの処方がされた。

【疾患の予後予測（文献）】

【人生の物語】

A氏は家族との人間関係に疲れ、20代で単身上京しているが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。仕事でも人間関係の問題が発生し、退職をするという繰り返しであり、人間関係の改善を試みたことは一度もないという人生であった。

【MOHOに関する文献】

【他部門評価】

【本人のニーズ】

- 「自由に歩けるようになる」
- 「買い物へ行ける」
- 「荷物を持つだけの力を得る」
- 「暇つぶしの手作業」

【家族のニーズ】

家族とは疎遠

【各種測定 検査値】

作業興味：粘土、折り紙など、コツコツ行う作業に興味を示し、会話は慣れた人へのみ心を開く。←

は！文献を調べていなかった

【リハの基本戦略（文献）】

【疾患の予後予測（文献）】

【**MOHO**に関する文献】

骨盤骨折のリハは上肢訓練から開始し，荷重許可に応じて立位歩行へ移行する¹⁾

2～3か月で骨癒合し，完治する事が可能である²⁾

閉じこもりは生体学的，心理学的，社会的なリスクを生じやすく，生きがいの創出が重要である³⁾

は！他部門あまり考慮してなかった

【他部門評価】

医師：2か月程度で骨折は完治する見込み。
歩行器から全荷重を許可する。血圧は160未満まで許可。

NS：初対面は冷たいが慣れると笑顔で交流できる。
現在はADL車いす見守りレベルで過ごしている

MSW：退院後は、全ての介護サービスを拒否中。

PT：骨折部の痛みある。歩行耐久性が低い。

今後の方針：立位歩行の訓練をしながらADLの自立度を上げていく
方針とする。1か月後に今後のIADL等は再検討とする。

【基本情報】

80代女性A氏は早朝に自転車で買い物へ行く途中で転倒し、骨盤骨折をした。ROM拡大や筋力トレーニングとADLの回復を目的に回復期リハビリテーション病棟へ転院され、PTとOTの処方がされた。

【人生の物語】

A氏は家族との人間関係に疲れ、20代で単身上京しているが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。仕事でも人間関係の問題が発生し、退職をするという繰り返しであり、人間関係の改善を試みたことは一度もないという人生であった。

【本人のニーズ】

「自由に歩けるようになる」
「買い物へ行ける」
「荷物を持つだけの力を得る」
「暇つぶしの手作業」

【家族のニーズ】

家族とは疎遠

【リハの基本戦略（文献）】

骨盤骨折のリハは上肢訓練から開始し、荷重許可に応じて立位歩行へ移行する¹⁾ ←

【疾患の予後予測（文献）】

2～3か月で骨癒合し、完治する事が可能である²⁾

【MOHOに関する文献】

閉じこもりは生体学的、心理学的、社会学的なリスクを生じやすく、生きがいの創出が重要である³⁾。

【他部門評価】

医師：2か月程度で骨折は完治する見込み。歩行器から全荷重を許可する。血圧は160未満まで許可。 ←

NS：初対面は冷たいが慣れると笑顔で交流できる。現在はADL車いす見守りレベルで過ごしている ←

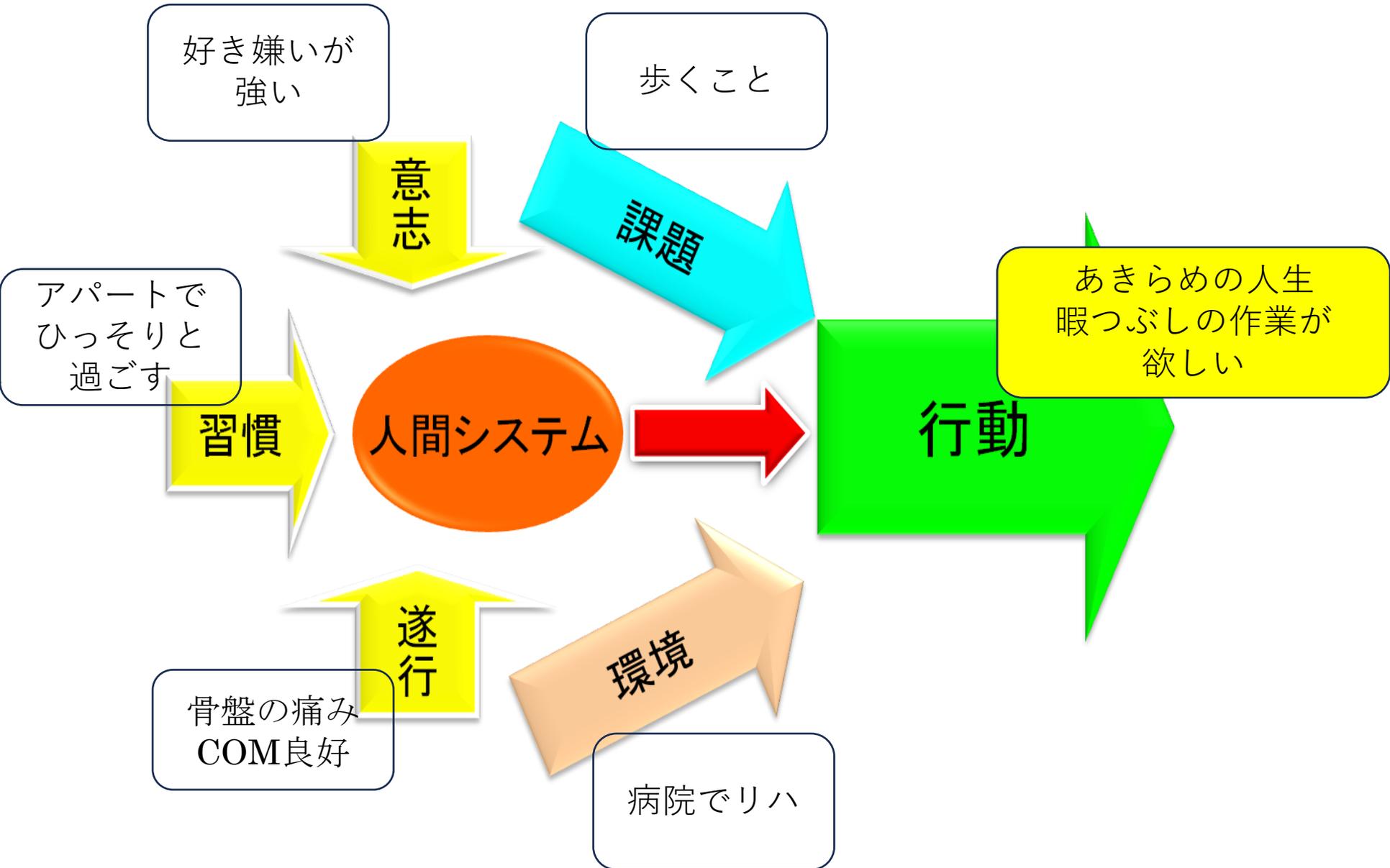
MSW：退院後は、全ての介護サービスを拒否中。 ←

PT：骨折部の痛みある。歩行耐久性が低い。 ←

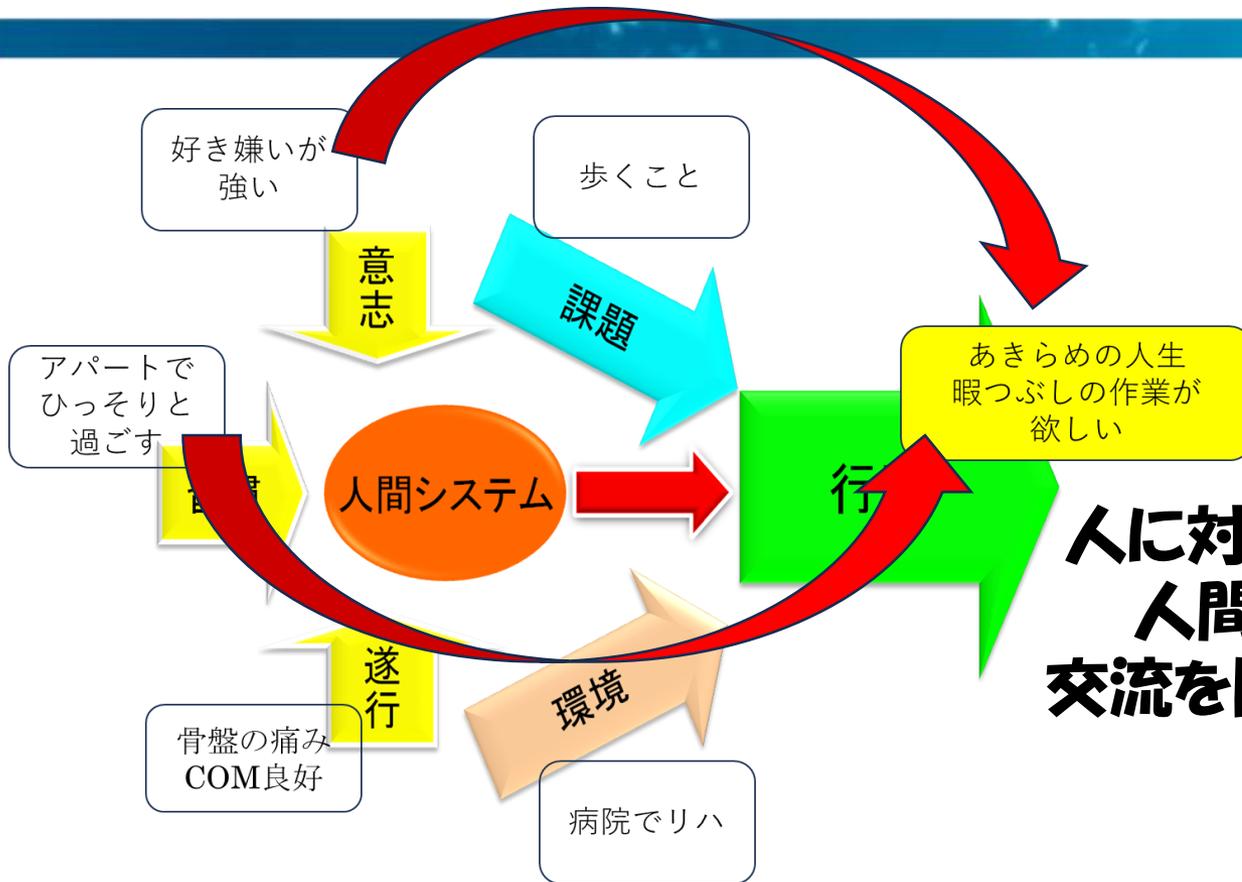
【各種測定 検査値】

作業興味：粘土、折り紙など、コツコツ行う作業に興味を示し、会話は慣れた人へののみ心を開く。 ←

そこから概念図で整理していく



提供作業の考察！



**人に対する好き嫌いが強く、
人間関係に悩む性格で
交流を断つ生活に習慣がある**

**人との交流を楽しめたら？
どうなるんだろう？**

はい！ここまで！これから

- ① 演習の事例を聞く
- ② 事例からレジュメに！
パズルの実施
- ③ MOHOで解釈
- ④ 介入方針立案



グループディスカッション1

事例情報（カルテ等）

80代女性A氏は早朝に自転車で買い物へ行く途中で転倒し、骨折をした。ROM拡大や筋力トレーニングとADLの回復を目的としたリハビリテーション病棟へ転院され、PTとOTの処方がされた。

エピソード

1か月の介入により歩行車で院内のADL遂行が可能となったため、自宅退院へ向けた生活の再構築を行うために、A氏の生活環境について検討した。A氏は家族との人間関係に疲れ、20代で単身上京しているが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。仕事でも人間関係の問題が発生し、退職するという繰り返しであり、人間関係の改善を試みたとは一度もないという人生であった。60代で生活保護となり、それからは人との交流を絶って生活をしてきた。人の目につかない早朝に買い物に行くことが主な外出であり、他の時間はアパートでひっそりと過ごしている。家では洗濯や調理などの家事と音楽鑑賞の作業があり、ラジオで流れる音楽をカセットテープに録音し、自分好みの選曲リストを作っている。カセットテープは新しいものではなく、同じものを何度も上書きしながら使う日々であった。このように人との交流を避けた時間を10年以上も続けるなど同じ作業の繰り返しで、「諦めの人生である」と述べていた。

平行棒での歩行が可能となり、歩行車で院内ADLが遂行可能となった現在の状態をCOPMにて評価した。その結果A氏は「自由に歩けるようになる」重要度10満足度3遂行度3、「買い物へ行く」重要度10満足度1遂行度1、「家族と過ごす」重要度10満足度1遂行度1、「趣味」重要度10満足度1遂行度1

【基本情報】

A氏、80代女性である。独居生活中、買い物のため自転車で移動中に転倒し、骨盤骨折となる。保存的治療にて3週間経過後に当院回復期へ転院され、OTにはADLと在宅生活の再構築を目的に介入指示が出ていた。

【人生の物語】

A氏は家族との人間関係に疲れ20代で単身上京している。その後は無資格で就業可能な飲食店、事務仕事など多岐に亘る仕事をしてきたが、長くても5年で退職し別の仕事に就くことを繰り返していた。「人間関係の悪化が縁の切れ目」と語っていた。60代で生活保護となり、それからは人との交流を絶って生活をしてきた。寂しくもなお家事と音楽鑑賞の作業があり、非常に充実しているとの認識を示している。

【本人のニーズ】

歩けるようになって早くひとり生活に戻りたい。

【家族のニーズ】

家族なし

【リハの基本戦略（文献）】

骨盤骨折のリハは上肢訓練から開始し、荷重許可に応じて立位歩行へ移行する¹⁾

【疾患の予後予測（文献）】

2~3か月で骨癒合し、完治する事が可能である²⁾

【MOHOに関する文献】

閉じこもりは生体的、心理学的、社会的なリスクを生じやすく、生きがいの創出が重要である³⁾

【他部門評価】

医師：2か月程度で骨折は完治する見込み。歩行器から全荷重を許可する。血圧は160未満まで許可。

NS：初対面は冷たいが慣れれば笑顔で交流できる。現在はADL車いす見守りレベルで過ごしている。

MSW：退院後は、全ての介護サービスを拒否中。

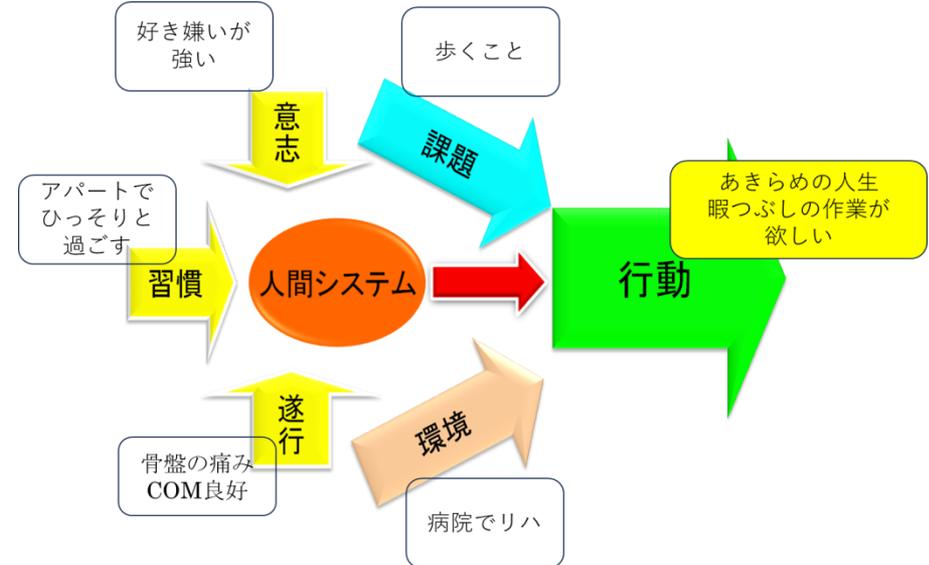
PT：骨折部の痛みある。歩行耐久性が低い。

【各種測定 検査値】

作業興味：粘土、折り紙など、コツコツ行う作業に興味を示し、会話は慣れた人へのみ心を開く。

- ① グループ内で自己紹介
- ② レジюмеに事例を落とし込んでみてください
※パズルです
※まとめ役(書記)を1名選定して下さい

グループディスカッション2



- ① 事例をMOHOに落とし込んでみてください
※考察です
- ② 可能なら介入方針も立案してみてください
※まとめ役(書記)を1名選定して下さい